

NO25 耐震設計

1. 地下部分の地震力
 2. 地震地域係数 α
 3. 階毎に異なる構造特性係数 D_s
 4. 限界耐力計算における減衰特性係数値
- H27
初 関連 H28
初 関連 H26
H25, R02

NO26 エキスパンションジョイント

1. 中地震時の変形
 2. 大地震時の変形
 3. 地下部分の検討
 4. 1階床スラブの検討
- 初
初
初
初

NO30 特定天井

1. 特定天井の検討
 2. ネットやワイヤによる落下防止措置
 3. 免震構造における検証
 4. 天井と笠との間には隙間を設ける...構造方法
- R02
R02
R02
H30

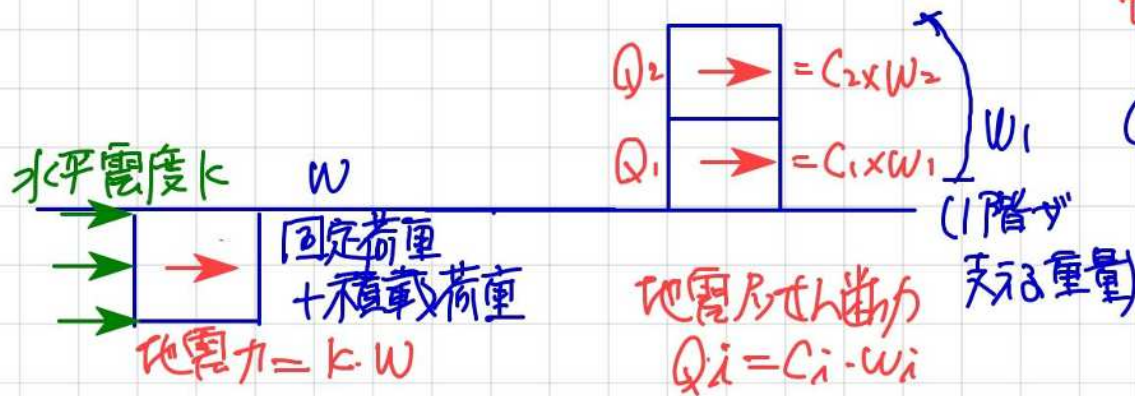
N25 1. 地下部分の地震力 全88条4項
地上部分と地下部分は抗力性状が異なる

2. 地震地域係数 α

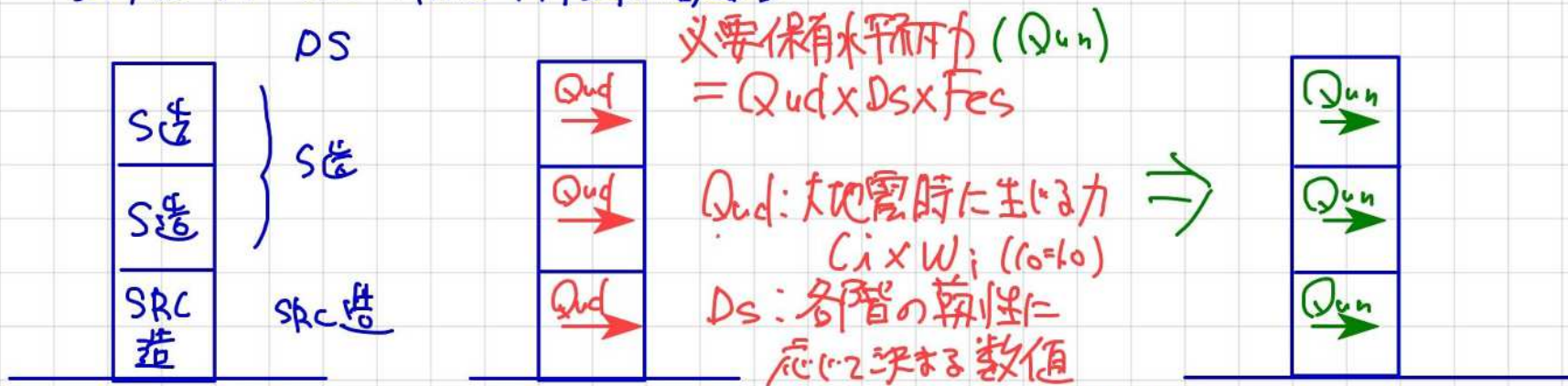
地震応せん断力 $Q_i = C_i \cdot W_i$

$C_i = \alpha \times R_t \times A_i \times C_0$

α : その地方における震害の程度に
よって決められた0.7~1.0の数値
 C_0 : 許容応力度設計(大地震) 0.2
: 必要保有水平力(大地震) 1.0

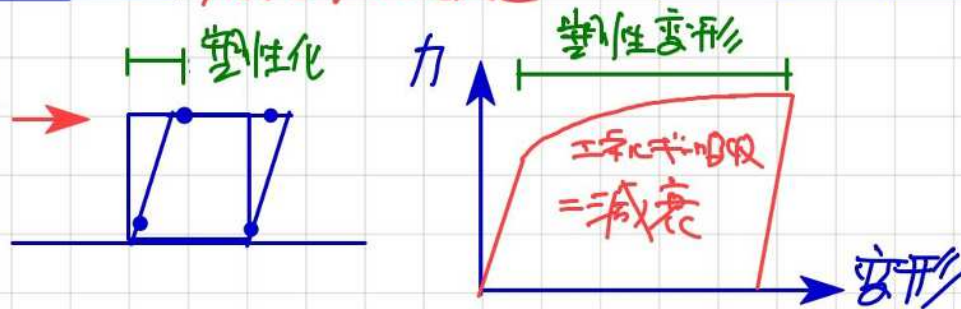


3. 階毎に異なる構造特性係数 D_s



4. 減衰特性を示す数値

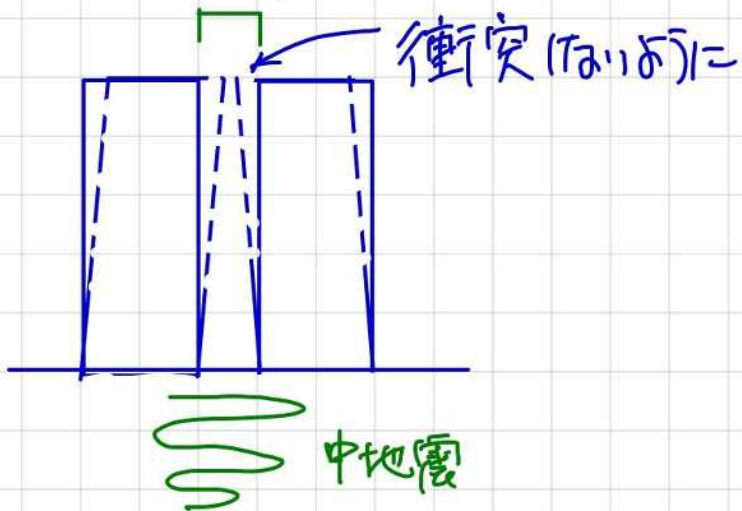
剛性化の程度が大きい
↳ 剛性变形が大きい
↳ 減衰が大きい



No.26 エキスパンションジョイント

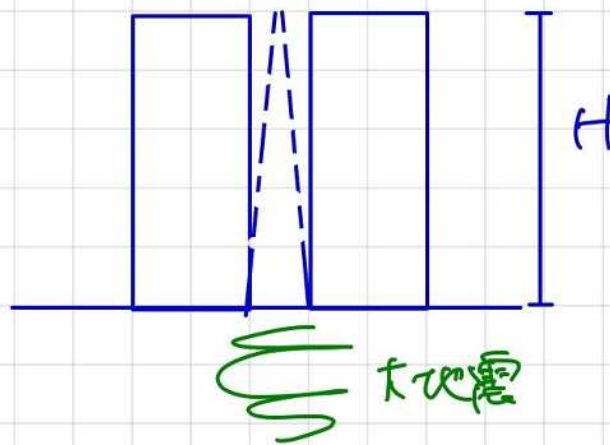
1. 中地震の変形

エキスパンションジョイントの間隔



2. 大地震時の変形

$$\frac{H}{100} + \frac{H}{100} = \frac{H}{50}$$

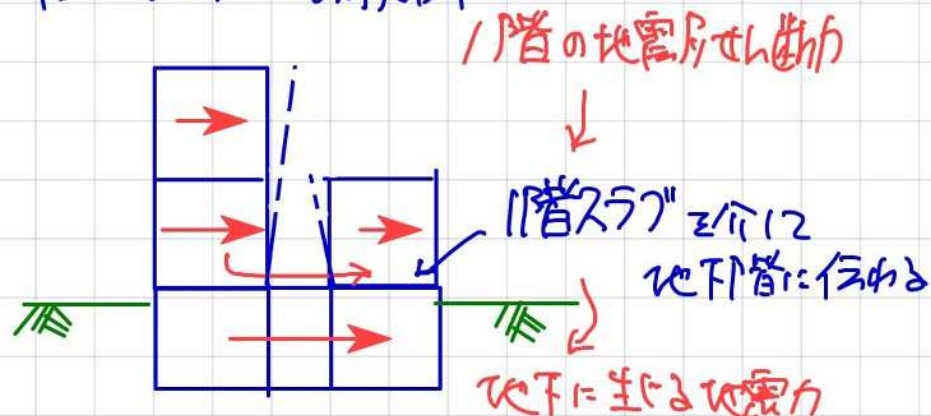


3. 地下部分の検討

地上部分で必要な割増しは不要

- ↓
- ルート1: 0の割増し
- ルート2: 筋か...の負担率による
底の割増し

4. 1階スラブの検討



№30 特定天井

1. 特定天井の検討

目的：中地震を超える地震時
↑ において天井が脱落しない事

中地震において天井の損傷を防止

3. 免震構造における検証

↓
水平震度 0.5 での検証

2. 既存建築物の増改築の対策

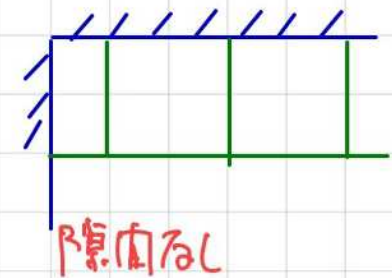
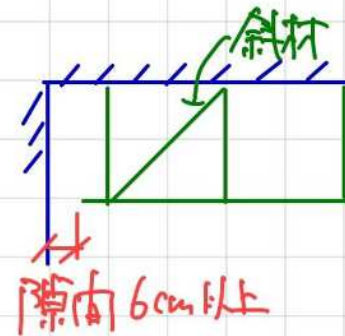
○ 天井が損傷しても落下しない措置

- ネットの設置
- 天井をワイヤーで吊る

○ 新築時の基準

どうして良い

4. 天井と壁との隙間



吊り材・天井材・管材の
剛性・強度を検証